



1

ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー

2011.1.8-3.21

ホンマタカシは写真集『TOKYO SUBURBIA』（東京郊外）（1998）^{1）}の発表を契機に評価が高まった現代写真家である。80年代後半から雑誌や広告を舞台に活躍する一方、写真表現の可能性を追求し、写真に何ができるか、写真とは何かを真摯に捉えてきた。ホンマの写真は90年代に多くの写真家の登場を促し、アートの領域での写真批評を可能にした。「TOKYO SUBURBIA」では「東京」の「郊外」という特殊な地域をドライな目で見つめ、物言わぬ写真に社会事象ともなったひとつの時代の空気を見事に語らせている。しかし、現実をありのままに伝えているというよりは、ホンマ自身の目を通して、すべてが主観的でコンセプチュアルなアプローチによるイメージとなり、結果として被写体にニュートラルで無関係さを持つホンマ自身の「東京郊外」についての見方を示している。

ゆえに「TOKYO SUBURBIA」は純粋なドキュメンタリーというよりは、より表現に力点を置いたドキュメンタリーであり、記録と表現のどちらかではなく、記録することで表現する、ホンマタカシが言うところの「ニュー・ドキュメンタリー」そのものである。

展覧会「ニュー・ドキュメンタリー」は、同時に写真というメディアの特性によって引き起こされるさまざまな問題—複製にまつわるaura、イメージとテキストとの関係性、時間、経験の代用、多重生や多義性など、現代美術における重要なテーマを取り上げ、プリントの写真だけでなく、そこから派生したシルクスクリーンや印刷物、映像、インスタレーションなど、多様なメディアや形態を用いた作品が発表された。

展覧会の冒頭を飾った《Trails》は、雪上に延々と続く血痕と思じきものを記録した写真と

絵画から成るシリーズである。写され描かれた赤い痕跡が何を物語るかは全く明らかにされないが、観る者を刺激しながら想像力をかき立てるうちに、見てとったものについての疑念や戸惑いが生じる。写真が決して「真を写す」ものではないことを繰り返して述べてきたホンマにとって、虚構と現実の間のゆらぎを、写真と絵画という異なるメディアの間のゆらぎに置換して、観る者に強く自覚させているのである。

同様に、写真が意味を帯びるのは映し出された動かし難い記録性のためではないことを「Tokyo and My Daughter」のシリーズで、作品タイトルとの間で暴いてみせた。幼い少女が成長していく過程を東京の街の風景を織り込みながら連続して見せるという、さながら家族アルバムからの抜粋のような作品である。タイトルにある「My Daughter」と、ホンマ自身が少



2



3



4



5

女と共に映る写真を一瞥すればなおのこと、ホンマが家族を撮り続けている「ドキュメンタリー」なのではないかと誰もが考える。しかし事実は全く異なり、結局のところ、写真の意味や内容はどのように形成されるかという、ホンマの問いに他ならない。シルクスクリーンの手法を使った「M」は、「同じものだけれど少しずつ違うもの」を作り出すシルクスクリーンの手法と同じロゴの元に拡散する世界的ハンバーガーチェーン店のイメージに重ねた作品群である。同時にシルクスクリーンはアメリカン・ポップを代表する技法でもあり、アメリカ大衆文化を参照点ともしている。網点を荒目にしてトリミングをした作品は元々の写真が持つイメージを大胆に逸脱して、いくらかでも増殖する現実の店舗展開をそのまま想起させる。

《re-construction》は物質としての写真のテ

クスチャーにこだわることを放棄し、元の意味や目的が剥ぎ取られた均質化されたイメージの焼き直しの集積である。芸術の領域における確立された写真と対極を為す広告や雑誌の特集写真は写真家の名前は小さくクレジットされるだけで、ほとんど匿名に近い。しかし、目的や発表の仕方は異なってもどちらもホンマタカシという写真家の仕事(work)のボディを成すものと、ホンマ自身も立ち位置を明確にしている点で意義深い作品であった。

(黒澤浩美)

*1. 「TOKYO SUBURBIA」は第24回1998年度木村伊兵衛賞を受賞。

1. 《Trails》より(2点組) 2009年
タイプCプリント 金沢21世紀美術館蔵
2. 《Tokyo and My Daughter》2006年
Cプリント、フォトアクリル 金沢21世紀美術館蔵
3. 《Tokyo and My Daughter》2006年
Cプリント、フォトアクリル 金沢21世紀美術館蔵
4. 《M/ロサンゼルス》2002/2010年
シルクスクリーン 金沢21世紀美術館蔵
5. 《re-construction》2011年
インスタレーション:各256頁、1色刷オフセット印刷
作家蔵

© Takashi Homma